

PROLOGUE

木二中 学校だより No.20 令和6年10月4日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j



名歌を鑑賞する

読書の秋…、ない時間を割いては読書に勤(いそ)しむ日々を送っていますが、たまには歴史に残る名歌(和歌・俳句)に触れることもいいものです。

右記の句は、いろいろ調べてみましたが作者・出典ともに不詳、いつ頃から詠まれた歌かも不明であるため、様々なバリエーションがあるけれども元のかたちも不明なんだそうです。(福井県立図書館所蔵の道歌・教訓歌の書籍、「道歌教訓和歌事典」P87に『踏まれても根強く忍べ道芝のやがて花咲く春は来ぬべし』と記載はあるが、作者・出典不詳)

この歌の意味は次の通り。「人に踏みつけられても辛抱強くただ耐えなさい。道ばたの芝だって踏まれても我慢強くしていれば、いずれ美しい花が咲く春が来るのだから。」

この歌から得ることのできる人生訓は、「困難に直面したときは心が萎えてしまうことがある。やってきたことに自信をなくしてしまうこともある。しかし、何かをしようとしているときには困難が必ずつきまとう。困難がなければ、すべての希望は手に入らない。苦労の上に花が開くのである。夜がなければ朝は来ない。冬がなければ春は来ない。」というもの。

齊藤亜香里著『道歌から知る美しい生き方』より

とても深いですね。特に高校入試に立ち向かう3年生たちにぴったりの歌ではないでしょうか。実はこの歌、高校野球の指導者としてまだまだ駆け出しの頃、高校時代の恩師がわざわざ色紙に記してくださったものです。初志を忘れてはならぬ、という意味で私の人生訓として校長室に掲示してあります。

そもそも日本には和歌や俳句といった美しい言葉の文化が数多く存在していますね。中学生の皆さんも国語の授業を通じて学んでいるかと思います。では、なぜ日本には美しい言葉の文化があるのだろうか？

英語科の教員として、私は次のように考えます。英語は、ルール(文法)がとても厳格な言語。皆さんも英文法にはかなり苦労しているのではないのでしょうか？例えば主語の人称や数によって動詞が変化したり、現在・過去・未来と時制によって動詞が変化したり…。それがなんと、気をつけなければいけないこと(英文法)はたくさんあるけれど、英語って実は5通りの文しかないって知っていますか？(5文型)

We will make America great again! 「我々はこのアメリカを再び偉大な国にする！」

前アメリカ大統領の演説の一節として今も語られていますが、この文は5通りある文型の一つ、第5文型に分類されます。中学生の皆さんは「難しい！」と苦労していますが、厳格なルールによって、たった5通りの文しかないのが英語なんです。

一方、日本語は語順や動詞の形といったルールが英語ほど厳格ではなく、とってもルーズ。主語がなくてもよかったり、述部でどんでん返しがあったりと英語ほど厳しいルールがあまり存在していない。英語は文の要素(主語・述語動詞・目的語・補語)の配列(語順)はルールによって決まっているけど(5通り)、日本語はどんな語順であっても通じない、なんてことはない。だからこそ、ルーズな日本語に5・7・5や5・7・5・7・7といった規則性(ルール)をわざと設けることによって言葉遊びの文化が生まれたのではないのかなあと…。「字余り」、「字足らず」といった5・7・5のルールを敢えて崩すことも言葉遊びの文化として扱われていますよね。

ちょっと話がそれてしまいましたが、行楽の秋、スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、そして芸術の秋と何をするにもちょうどいい季節。読書でも音楽でもスポーツでも何でも、何か一つでいいから気が趣く(おもむく)ままに秋を感じながら何か新しいことに挑戦してみたいか？3年生は受験勉強でそれどころではないかもしれないけれど…。あ、英語は品詞(8品詞)の働きと5文型を勉強すると「英語ってこんなに簡単だったの？」になるはず。参考までに。

踏まれても
根強く忍べ
道芝の
やがて花咲く
春は来ぬべし